

「我々紅麹業界に何が起こったか」

## ② 100社への電話、そして一変した夜

—2024年3月25日～28日、企業名公表まで—

### 【結論】

弊社は公表より先に、棚に並ぶ商品を下げてもらうことを最優先とし、取引先約100社に1件ずつ電話をかけた。それに2日と半日を要した。3月27日午後、ようやく自主回収を公表した。しかしその翌28日夜、厚生労働省が弊社の名前を含む225社の企業名を公表した。電話の内容が、一変した。

### 1 取引先100社に、1件ずつ電話をかけた

3月25日、弊社は取引先への連絡を、1件ずつ電話で行うことにした。

小林製菓は記者会見を開き、その後にFAX1枚を取引先に送った。弊社は逆だった。公表より先に、小売店の棚に並んでいる商品を下げてもらうことを最優先とし、取引先約100社に1件ずつ電話をかけていった。

この作業に、2日と半日かかった。

ただ、弊社には取引先の整備されたリストがなかった。その結果、数社への連絡が漏れてしまった。後になって、その連絡漏れを理由に取引を失ったところがある。今でも悔やまれる。

### 2 3月26日（火）朝—「自主回収をやめますか」

3月26日の朝、備中保健所に電話をかけると、担当者からこう言われた。

「自主回収をやめますか？」

当時、弊社はニュースをほとんどチェックできていなかった。連絡作業に追われ、世の中で何が起きているかを把握する余裕がなかった。なぜ保健所がそのようなことを言うのか、その時点では意味が分からなかった。

しかし「やめる」という選択肢はなかった。すでに30社ほどに「回収します」と電話をしていた。引き返せる段階ではなかった。

### 3 3月27日（水）—公表、そして電話が鳴り続けた

3月27日午後、ほぼ全取引先への連絡が完了した。弊社は自主回収を公表した。

地元岡山のNHKと瀬戸内海放送が取材に来てくれた。両局とも、弊社の主張—「弊社商品に問題はないが、社会的要請から自主回収を行っている」—をそのまま正確に報道してくれた。地元メディアの誠実さに、救われた思いがした。

お客様相談センターへの電話対応は、100%私自身が行った。すぐに出られなかった場合も、必ず折り返した。最初のころに多かったのは、小林製菓への怒りと、弊社への「頑張ってください」という声だった。

小林製菓の担当者とも連絡を取り合っていた。先方の言葉が印象に残っている—「この騒ぎが終わったら、またよろしくお願いします」。

## 4 3月28日（木）夜——変じた

翌28日、何が起こるかは、まだ誰も知らなかった。

しかしその夜、厚生労働省が弊社の名前を含む52社+173社、計225社の企業名を公表した。

お客様からの電話の内容が、一変した。取引先からの問い合わせも、一変した。

【次回予告】㊿ 2024年3月28日—企業名公表、あの夜から何が変わったか

### ▼ 【薫製倶楽部プレスリリース・シリーズ】

- ▶ ① 小林製薬紅麴問題の本質（2024/4/1）
- ▶ ② 紅麴食品製造業者225社の公表について（2024/4/5）
- ▶ ③ プベルル酸同定の科学的検証（2024/5/15）
- ▶ ④ 食薬区分の構造的問題（2024/6/1）
- ▶ ⑤ 機能性表示食品制度の問題点（2024/7/1）
- ▶ ⑥ 行政文書開示請求の結果について（2024/8/1）
- ▶ ⑦ 収去記録の不存在について（2024/9/1）
- ▶ ⑧ NIHS文書の欠如と科学的根拠の問題（2024/10/1）
- ▶ ⑨ 行政不服審査請求の提出（2024/11/1）
- ▶ ⑩ 民事訴訟の提起について（2024/12/1）
- ▶ ⑪ 学術論文への懸念表明（2025/1/15）
- ▶ ⑫ 国際的な科学コミュニティへの発信（2025/2/1）
- ▶ ⑬ 研究倫理委員会への申し立て（2025/3/1）
- ▶ ⑭ 刑事告発の準備（2025/11/1）
- ▶ ⑮ 刑事告発状の提出—「収去なき断定」は刑法違反である（2026/3/25）
- ▶ ⑯ 「収去記録の特定に60日」—存在しないから探せない（2026/4/1）
- ▶ ⑰ 大阪市保健所は最大の被害者である（2026/4/2）
- ▶ ⑱ 「収去なき断定」の全体像（2026/4/3）
- ▶ ⑲ 小林製薬紅麴コレステヘルプa(G970)—医薬品文献を根拠とした機能性表示食品、消費者庁に行政不服審査請求（2026/4/3）
- ▶ ㉑ 厚生労働省が公文書で「判断放棄」を確認—米国が2001年に解決した問題を日本は25年後も回避（2026/4/3）
- ▶ ㉒ プベルル酸と誘導された経緯（調査報告①）「不完全同定」での断定報告（2026/4/6）
- ▶ ㉓ プベルル酸と誘導された経緯（調査報告②）—有識者会議が見逃した理由（2026/4/7）
- ▶ ㉔ 天然物の同定に時間がかかることは科学の常識である—未知物質の存在を前提としない行政判断の問題点（2026/4/8）
- ▶ ㉕ カビの世界と利益相反—吉成文献における研究の独立性と客観性への重大な疑問（2026/4/9）
- ▶ ㉖ 「我々紅麴業界に何が起こったか」—紅麴が誤解される「構造的理由」（2026/4/10）
- ▶ ㉗ 「我々紅麴業界に何が起こったか」—誤解を解くのに2年かかった戦い、そして原田さん（2026/4/10）
- ▶ ㉘ 「我々紅麴業界に何が起こったか」—岡山県と紅麴文化、そして崩壊（2026/4/10）
- ▶ ㉙ 「我々紅麴業界に何が起こったか」—自主回収という名の「強制」・前編（2026/4/13）
- ▶ ㉚ 「我々紅麴業界に何が起こったか」—100社への電話、そして一変した夜（2026/4/14）